

第7回「防衛力変革推進本部」における 防衛大臣冒頭御発言

本日の議題は、前回に引き続き「防衛力の変革の方向性」です。①継戦能力、②施設の強靱化、③衛生機能の3点についてご議論いただきます。

まず、継戦能力についてです。

ロシアのウクライナ侵略が4年以上の長期にわたって続く中、あらゆる種類の装備と弾薬が大量に消費され、防衛産業の規模と能力が一層重要となっています。開戦当初の物量不足による不利な形勢を挽回することは難しく、平素からの備蓄や開戦後の増産体制の整備が重要であることも重要な教訓です。

武力侵攻しようとする敵に、「事態を長期化させれば侵攻が成功する」と思わせるような隙を与えてはならない。「国家防衛」という大任を担う我々は、ロシアによるウクライナ侵略の教訓を真剣に受け止めなければなりません。

その上で、如何にして、必要な物資を安定的に確保し、有事に前線で防衛の任に当たる部隊に輸送していくのか。物資の集積の拡大や、無人海上輸送アセットの早期導入などについて、真剣かつ率直な議論を行うことを期待します。

次に、施設の強靱化です。

自衛隊施設は、自衛隊員が能力を発揮して我が国防衛に当たるための基盤であり、同時に、日々生活し勤務する場でもあります。

有事においては、人的被害を局限し、部隊が粘り強く戦い続けられるよう、自衛隊施設の強靱化を図ることは極めて重要です。

私は、強い危機感を持って、着任以来、自衛隊員とご家族を守り抜くという決意で、隊員の生活勤務の場である隊舎や庁舎の整備について優先的に進めてきました。

また、我が国独自の新しい戦略・戦い方の導入に合わせて、アセットの分散やデコイによる欺瞞といった、攻撃を受けても機能を喪失しないようにすること、いわゆる「消極防御」の強化や、自衛隊の指揮統制に

係る組織・体制の変革を、これまで以上のスピードで前に進めてください。

最後に、衛生機能の強化です。

これまでも申し上げてきましたが、私は、自衛隊員の命を守るためならば、前例にとらわれることなく、必要な判断をしていきます。

自衛隊が「世界で最も隊員の命を大切にする組織」であるために、隊員の生命と身体を守るための衛生機能の強化は、特に、できることからスピード感を持って実現していくことが重要です。例えば、戦闘の現場で行うことのできる救命措置については、先日、私が習志野駐屯地を視察した際に部隊からの要望があり、省内で議論を重ねた結果、安全対策を講じた上で拡大する方針を示しました。現在、部外有識者や関係省庁の方々との議論を行い、予定より早い5月の訓令改正に向け、具体化を進めています。

また、私の着任後すぐに立ち上げたこの会議も今回で7回目となります。この会議において様々なご意見がありましたが、議論があったことについては、迅速・確実に実現できるよう、しっかりとフォローアップをしていくようにお願いします。

本日も、防衛力の変革に向け、従来の発想にとらわれない活発で率直な議論を期待します。